

KANABUCHI, Yuji et al.

May 2, 2001

BSK

(703) 205-8000

0445-0300?

日本国特許庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2000年 5月 26日

出願番号
Application Number: 特願 2000-156872

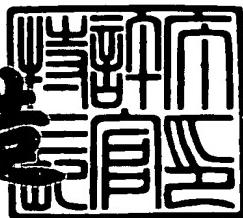
出願人
Applicant(s): 花王株式会社



2001年 1月 12日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特 2000-3111472

【書類名】 特許願

【整理番号】 P00-382

【提出日】 平成12年 5月26日

【あて先】 特許庁長官 近藤 隆彦 殿

【国際特許分類】 B65D 5/00

【発明者】

【住所又は居所】 東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会社研究所内

【氏名】 川口 裕次

【発明者】

【住所又は居所】 東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会社研究所内

【氏名】 藤田 実智昭

【特許出願人】

【識別番号】 000000918

【氏名又は名称】 花王株式会社

【代理人】

【識別番号】 100076532

【弁理士】

【氏名又は名称】 羽鳥 修

【選任した代理人】

【識別番号】 100101292

【弁理士】

【氏名又は名称】 松嶋 善之

【選任した代理人】

【識別番号】 100107205

【弁理士】

【氏名又は名称】 前田 秀一

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 013398

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1
【物件名】 図面 1
【物件名】 要約書 1
【包括委任状番号】 9902363
【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 紙容器

【特許請求の範囲】

【請求項1】 紙を製版して形成される6面体形状の紙容器において、容器本体と、該容器本体の上端開口面の背面側縁部にヒンジ接合されて当該上端開口面を開閉する蓋部材とからなり、

前記容器本体の正面板には前記上端開口面から延設された凹状切り欠き部が形成されており、

前記蓋部材は、前記上端開口面を覆う上面蓋部と、前記凹状切り欠き部を覆う大きさの正面蓋部と、前記上面蓋部の側縁部と前記正面蓋部の側縁部との間に介在して前記上面蓋部に対して前記正面蓋部を垂直に接合させる一対の側面蓋部とからなる紙容器。

【請求項2】 前記容器本体の内側には印籠部が装着されると共に、該印籠部の正面板に前記凹状切り欠き部が形成されており、

前記容器本体及び蓋部材は、6面体形状の紙箱を、当該紙箱の上面板と背面板との接続稜線の両端から延長する切断誘導線を介して切断分割することにより形成され、

該切断誘導線は、前記接続稜線の両端から一対の側面板に沿って各々斜め下方に延長し、前記印籠部の正面板に形成された前記凹状切り欠き部の下方において前記正面板に沿って延長している請求項1記載の紙容器。

【請求項3】 前記凹状切り欠き部の下方には、前記蓋部材の正面蓋部の下端部分を係止する係止部が設けられている請求項1又は2に記載の紙容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本発明は、紙を製版して形成される6面体形状の紙容器に関する。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】

洗剤や食品等を収容する容器として六面体状の紙容器が広く使用されている。

この紙容器は、収容物を収容する容器本体と該容器本体の上端開口面を覆う蓋部材とからなり、該蓋部材を開閉して収容物を取り出す。蓋部材としては、容器本体と別体として設けられた取り外し可能な開閉蓋や、上端開口面の背面側縁部に開閉可能にヒンジ結合され、先端部分を折り曲げて形成した係止片を上端開口面の正面側縁部の内側に係止して封止状態とする蓋板が知られている。

【0003】

しかしながら、従来の紙容器によれば、開閉蓋を別体としたものは取り扱いに不便であり、蓋板によるものは周囲に隙間が生じやすく良好な封止状態を得ることが難しい。また、特に収容物として板状物を積層状態で収容する場合には、収容物を上端開口面から取り出しにくい。

【0004】

本発明は、扱い易く、閉蓋時における良好な封止状態を得ることできることと共に、収容物の取り出し易さを改善した紙容器の提供を目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】

本発明は、紙を製造して形成される6面体形状の紙容器において、容器本体と、該容器本体の上端開口面の背面側縁部にヒンジ接合されて当該上端開口面を開閉する蓋部材とからなり、前記容器本体の正面板には前記上端開口面から延設された凹状切り欠き部が形成されており、前記蓋部材は、前記上端開口面を覆う上面蓋部と、前記凹状切り欠き部を覆う大きさの正面蓋部と、前記上面蓋部の側縁部と前記正面蓋部の側縁部との間に介在して前記上面蓋部に対して前記正面蓋部を垂直に接合させる一対の側面蓋部とからなる紙容器を提供することにより、上記目的を達成したものである。

【0006】

【発明の実施の形態】

本発明の好ましい実施形態に係る紙容器10は、図1に示すように、一例として薄板状の収容物であるシート状洗剤11を多数積層した状態で収容する容器として使用される。なお、シート状洗剤11は、洗濯用の洗剤を水溶性シートで挟み込んでシート状に形成され、これのそのまま洗濯機等に投入して、洗濯に供さ

れるものである。

【0007】

本実施形態の紙容器10は、板紙を製図して形成される直方体形状の紙容器であって、容器本体12と、容器本体12の上端開口面13の背面側縁部にヒンジ接合されて上端開口面13を開閉する蓋部材14とからなる。また、容器本体12の正面板15には上端開口面13から延設された凹状切り欠き部16が形成されている。蓋部材14は、上端開口面13を覆う上面蓋部17と、凹状切り欠き部16を覆う大きさの正面蓋部18と、上面蓋部17の側縁部と正面蓋部18の側縁部との間に介在して上面蓋部17に対して正面蓋部18を垂直に接合させる一対の側面蓋部19とからなる。

【0008】

紙容器10を構成する板紙は、例えば紙基材と、紙基材の外側面を覆う印刷層及び外側フィルムと、内側面を覆う内側フィルムとからなる積層紙である。この板紙を所定の展開形状に切断すると共に立体形状となるように折り曲げ、適宜箇所を接着することによって、例えば縦90mm、横130mm、高さ100mm程度の大きさの直方体形状の紙容器10が形成される。

【0009】

容器本体12は、上端面が上端開口面13として開口する直方体形状の箱体である。本実施形態によれば、容器本体12は、図2に示すように、当該容器本体12を構成する外殻体20の内側に直方体形状の印籠部21が装着されることにより、二重構造を備える。そして、印籠部21の正面板22の上半部分及び一対の側面板23の上半部分は外殻体20の上方に露出して、当該外殻体20と共に容器本体12の正面板15及び側面板25を形成する（図1参照）。

【0010】

また、本実施形態によれば、容器本体12の正面板15を構成する印籠部21の露出した正面板22には、容器本体12の上端開口面13から延設された上記凹状切り欠き部16が、横100mm、高さ60mmの領域内において下端縁部を湾曲させた状態で形成されている。また凹状切り欠き部16の湾曲する下端縁部の中央部分には、両側に切り込み24を入れることにより、舌状係止部26が形

成されている。この舌状係止部26には、紙容器10の閉蓋時に、後述する蓋部材14の正面蓋部18の下端部分が係止される（図3参照）。

【0011】

蓋部材14は、その上面蓋部17の背面側縁部が、容器本体12を構成する外殻体20の背面板27の上端縁部に折れ癖線28を介してヒンジ接合されており（図2参照）、この折れ癖線28を中心回動して上端開口面13を開閉する。上面蓋部17は、上端開口面13の大きさと略同様の、縦90mm、横130mmの矩形形状を有し、閉蓋時に上端開口面13を上方から被せるようして配置される。正面蓋部18は、横130mm、高さ65mmの矩形形状を有し、その上端縁部が上面蓋部17の正面側縁部と垂直に接合している。また、図3に示すように、正面蓋部18は、閉蓋時にその下端縁部が容器本体12の凹状切り欠き部16の下方に位置し、その下端部分が切り込み24に挿み込まれるようにして舌状係止部26に係止されることにより、凹状切り欠き部16を前方から被せるように覆って配置される。側面蓋部19は、各々縦90mm、高さ65mmの直角3角形状を有し、直角を挟んだ上端縁部と正面側縁部とを、上面蓋部17の側縁部と正面蓋部18の側縁部に各々接合することにより、上面蓋部17に対して正面蓋部18を垂直に接合させた状態を保持する。

【0012】

本実施形態によれば、容器本体12を構成する外殻体20と蓋部材14とは、図4に示すように、6面体形状の紙箱29を、当該紙箱29の上面板30と背面板31との接続稜線32の両端から延長する切断帯33を介して切断分割することにより形成される。切断帯33は、切断誘導線としての上下一対のミシン目34、35に挟まれて形成され、当該切断帯33をミシン目34、35に沿って引き裂くことにより、紙箱29は、接続稜線32を折れ癖線28として互いにヒンジ結合される外殻体20と蓋部材14とに分割される。上方に位置するミシン目34は、接続稜線32の両端から紙箱29の一対の側面板36に沿って各々斜め下方に延長し、印籠部21の正面板22に形成された凹状切り欠き部16の下方において紙箱29の正面板37に沿って延長している。これによって形成された蓋部材14は、上述のような上面蓋部17と、正面蓋部18と、一対の側面蓋部

19とからなる構成を備えることになる。

【0013】

本実施形態によれば、紙容器10は、紙箱29の内部に積層状態のシート状洗剤11及び印籠部21を収容した製品として流通、販売される。シート状洗剤11の使用時には、切断帯33を引き裂いて外殻体20と蓋部材14とに分割し、蓋部材14を開閉可能な状態としてシート状洗剤11を取り出す。

【0014】

本実施形態の紙容器10によれば、蓋部材14は、ヒンジ接合により容器本体12と一体として設けられているので、開閉時の取り扱いに便利である。また、蓋部材14は、上面蓋部17、正面蓋部18及び側面蓋部19からなる充分な大きさの立体形状を有し、容器本体12の上端開口面13及び凹状切り欠き部16を隙間なく覆うことができるので、異物の混入や付着を容易に回避しつつ良好な封止状態でシート状洗剤11を収容することができる。さらに、正面板15に凹状切り欠き部16が形成されていることにより、積層されたシート状洗剤11を正面側から摘みやすくなり、容易に取り出すことが可能になる。さらにまた、蓋部材14は、紙箱29の接続稜線32において容器本体12にヒンジ接合しているので、背面板27を背後の壁等に密着させて容器本体12を設置した場合でも、蓋部材14を上方に回動して開蓋することができ、上端開口面13及び凹状切り欠き部16を介してシート状洗剤11を容易に取り出すことが可能になる。蓋部材14は、前記接続稜線32において、容器本体12にヒンジ接合しているため、元の形に戻ろうとする板紙の習性によって蓋部材14が容器本体12より上方へ浮き上がり易くなり、封止状態が保てない場合がある。そこで、蓋部材14の正面蓋部18の下端部分を容器本体12の正面板15の舌状係止部26に係合させて、封止状態を保持できるようにした。閉蓋時には、蓋部材14の正面蓋部18の下端部分が舌状係止部26に係止されることにより、紙容器10の閉まり感を認知することができると共に、封止状態を確実に保持できる。

【0015】

すなわち、本実施形態の紙容器10によれば、扱い易く、閉蓋時における良好な封止状態を得ることできると共に、シート状洗剤11の取り出し易さが改善さ

れることになる。

【0016】

図5は、本発明の他の実施形態に係る紙容器50を示すものである。この紙容器50によれば、容器本体51は、印籠部のない一重構造となっている。また、容器本体51の上端開口面52の背面側縁部に蓋部材53がヒンジ接合されていると共に、容器本体51の正面板54には凹状切り欠き部55が形成され、この下端縁部には舌状係止部56が設けられている。この紙容器50によれば、蓋部材53によって上端開口面52及び凹状切り欠き部55を覆い、当該蓋部材53の周縁部を容器本体51に接着した状態で流通、販売される。また、接着状態を解除し、蓋部材53を開閉可能にしてシート状洗剤11を取り出すようになっている。この紙容器50によっても上記実施形態の紙容器10と同様の作用効果が得られる。

【0017】

なお、本発明は上記実施形態に限定されることなく種々の変更が可能である。例えば、凹状切り欠き部の下方に蓋部材の係止部を設ける必要は必ずしもなく、係止部は舌状係止部以外の形態のものを採用できる。また、薄板状のシート状洗剤に限定されることなく、粉状洗剤や食品等、その他の収容物を収容する容器として採用することもできる。さらに、蓋部材の側面蓋部は、必ずしも直角3角形状のものである必要はない。

【0018】

【発明の効果】

本発明の紙容器によれば、扱い易く、閉蓋時における良好な封止状態を得ることできると共に、収容物の取り出し易さを改善できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の一実施形態に係る紙容器の開蓋状態の斜視図である。

【図2】

本発明の一実施形態に係る紙容器の分解斜視図である。

【図3】

本発明の一実施形態に係る紙容器の閉蓋状態の斜視図である。

【図4】

切断帯を引き裂く状態を説明する斜視図である。

【図5】

本発明の他の実施形態に係る紙容器の開蓋状態の斜視図である。

【符号の説明】

10, 50 紙容器

11 シート状洗剤

12, 51 容器本体

13, 52 上端開口面

14 蓋部材

15, 54 正面板（容器本体）

16, 55 凹状切り欠き部

17 上面蓋部

18 正面蓋部

19 側面蓋部

20 外殻体

21 印籠部

22 正面板（印籠部）

23 側面板（印籠部）

24 切り込み

25 側面板（容器本体）

26, 56 舌状係止部

27 背面板（外殻体）

28 折れ縫線

29 紙箱

30 上面板（紙箱）

31 背面板（紙箱）

32 接続稜線

特2000-156872

33 切断帶

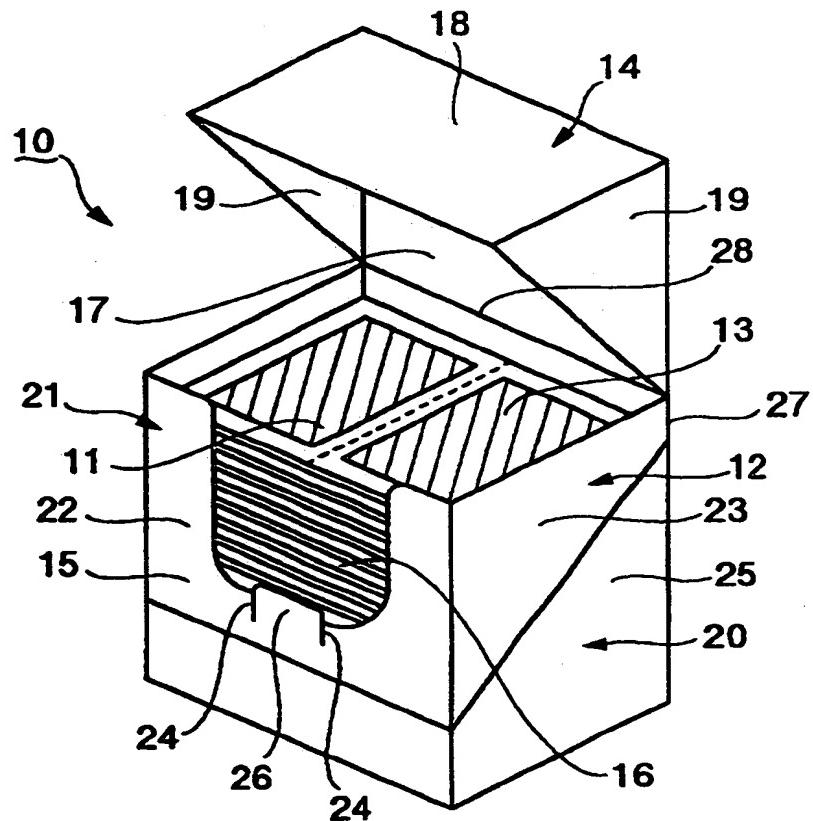
34, 35 ミシン目

36 側面板（紙箱）

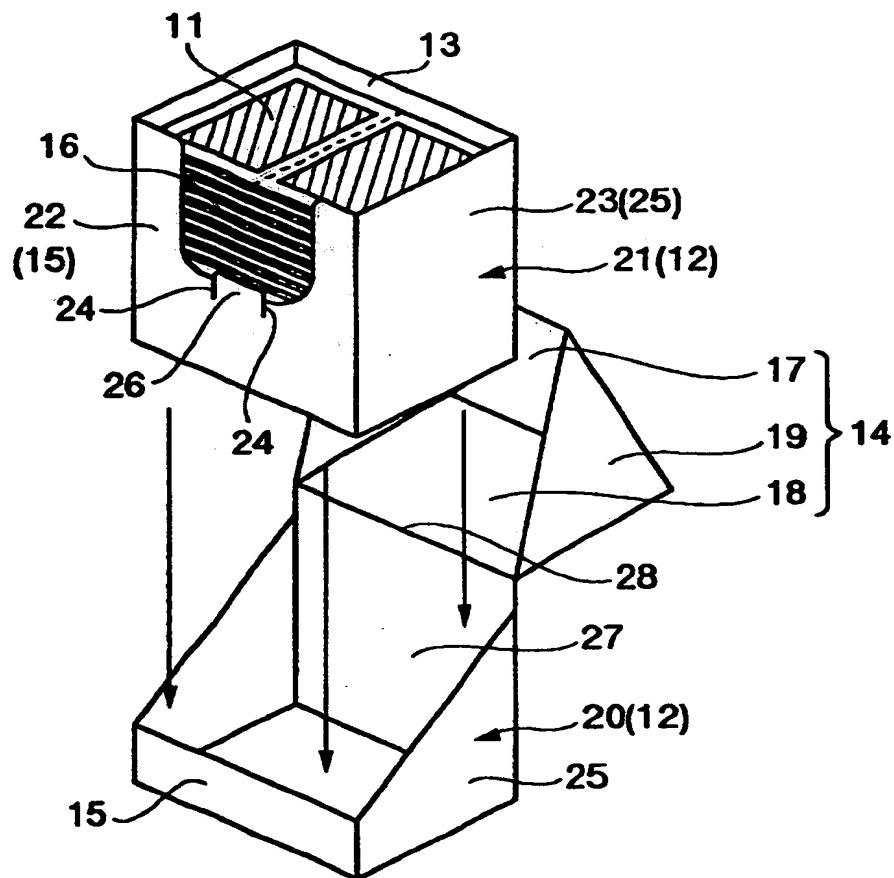
37 正面板（紙箱）

【書類名】 図面

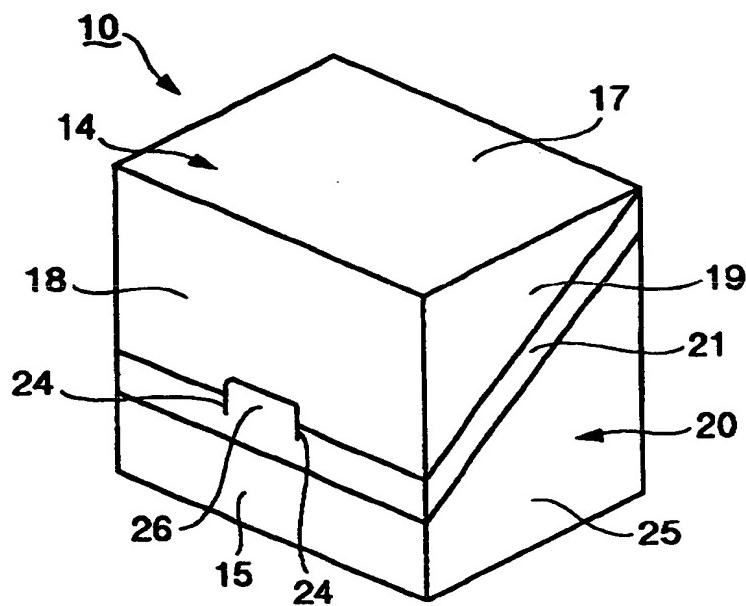
【図1】



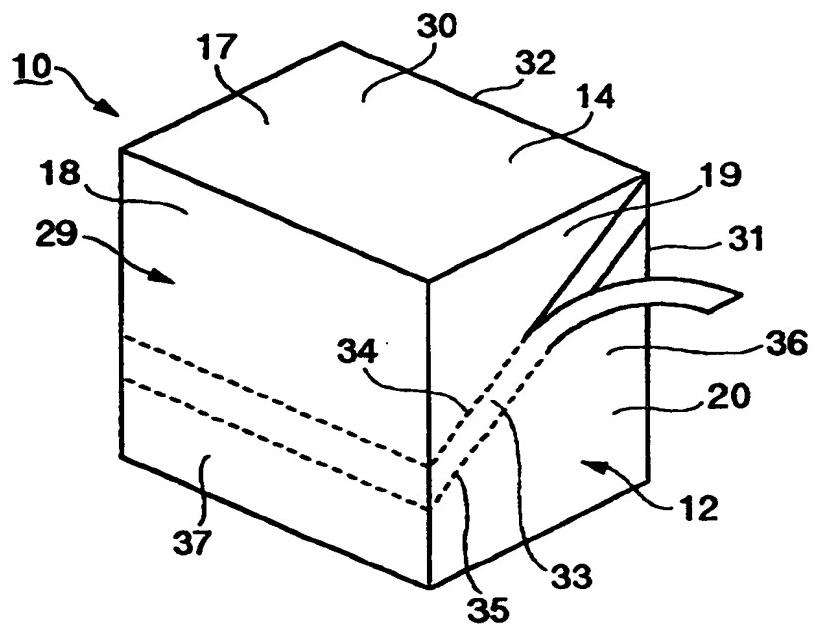
【図2】



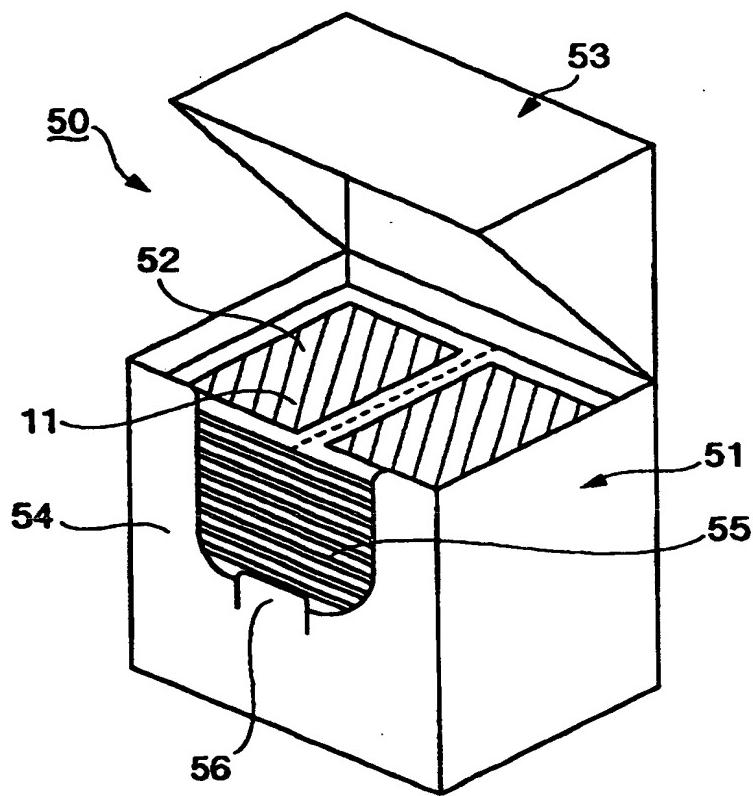
【図3】



【図4】



【図5】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 扱い易く、閉蓋時における良好な封止状態を得ることできると共に、収容物の取り出し易さを改善した紙容器を提供する。

【解決手段】 板紙を製図して形成される6面体形状の紙容器10において、容器本体12と、容器本体12の上端開口面13の背面側縁部にヒンジ結合されて当該上端開口面13を開閉する蓋部材14とからなり、容器本体12の正面板15には上端開口面13から延設された凹状切り欠き部16が形成されている。また蓋部材14は、上端開口面13を覆う上面蓋部17と、凹状切り欠き部16を覆う大きさの正面蓋部18と、上面蓋部17の側縁部と正面蓋部18の側縁部との間に介在して上面蓋部17に対して正面蓋部18を垂直に接合させる一対の側面蓋部19とからなる。凹状切り欠き部16の下方には、蓋部材14の正面蓋部18の下端部分を係止する舌状係止部26が設けられている。

【選択図】 図1

出願人履歴情報

識別番号 [000000918]

1. 変更年月日 1990年 8月24日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号
氏 名 花王株式会社